

2. ユーロ紙幣200EUR

デザインは「鉄とガラスの時代の建築」が基調になっている。

色は「黄色」が基調色となっている。

(サイズ153×82)

(表面)



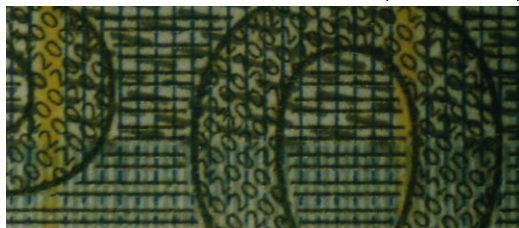
(裏面)



1) マイクロ文字

ユーロ紙幣にはマイクロ文字は表裏とも数カ所にそれぞれ異なったおもむきで印刷されている。

(表面 - 図)



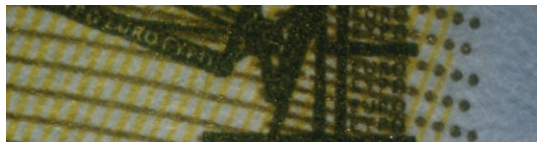
2) マイクロ文字

(表面 - 図)



3) マイクロ文字

(裏面 - 図)



4) セキュリティーレッド

(表面 - 図)

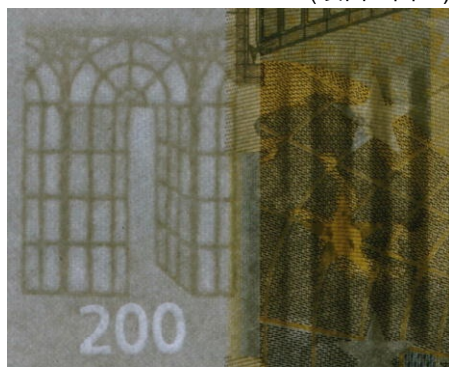
紙幣のほぼ中央に 200 EUR の文字が上下、表裏を交互にあり、金属箔をベースにした打ち抜き文字となっている。
(写真は透過光撮影)



5) すかし

(表面 - 図)

ユーロ紙幣のすかしは非印刷面(表裏左側)に、基調デザインと同様のデザインで施されている。手法としてはいわゆる白黒すかしが採用されている。また、印刷面には格子状のすかしが見られる。



6) シフティングカラードインク

(裏面 - 図)

A. 裏面金種のマーク

正面から垂直状態に置いて見ると紫色に見える印刷が角度を変化させることによって徐々に黒(またはこげ茶色)色に変化する。

紫色



目線



紙幣

黒(またはこげ茶色)色



7) ホログラム

ユーロ紙幣のホログラムは非常に精巧なできばえである。

まず、透過光では図 - のように EUR マークがすかしのように施されている。

さらに、反射光ではホログラムは見る角度を変えることで様々な画像が色彩を変えて表れる。ホログラムとしては他に類を見ない精巧なできばえと言える。

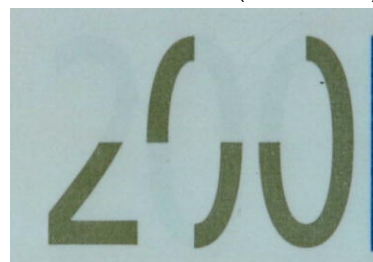
(表面 - 図)



8) (表裏の) 合わせ印刷

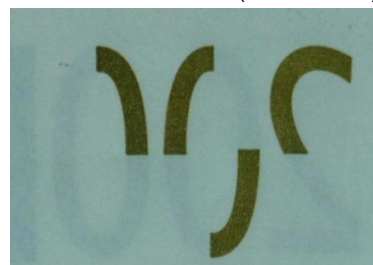
A . 合わせ印刷は表裏のデザインを透過し重ねて見ると意味を表す。ユーロ紙幣では金種マークに使用されている。(写真は反射光撮影)

(表面 - 図)



B . 合わせ印刷は表裏のデザインを透過し重ねて見ると意味を表す。ユーロ紙幣では金種マークに使用されている。(写真は反射光撮影)

(表面 - 図)



(裏面 - 図)

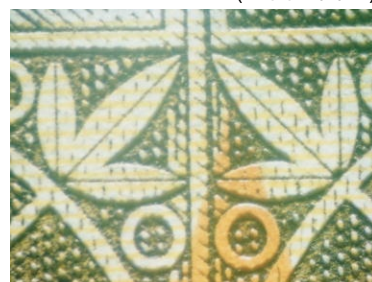
C. 合わせ印刷は表裏のデザインを透過し重ねて見ると意味を表す。ユーロ紙幣では金種マークに使用されている。(写真は透過光撮影)



9) 凹版印刷

表裏とも際だった凹版印刷によるインクの盛り上がりが見え、視認できる。(写真は斜光撮影)

(裏面 - 図)



10) 蛍光印刷

表面の蛍光は印刷に用いたインクと用紙に施された混抄繊維の2種類が見られる。印刷ではオレンジ色、緑色、黄色の蛍光インクが見られ、混抄繊維では同様の色に加え、青色が見られる。用紙そのものの蛍光発光は見られない。

(表面)



(裏面)



11) 赤外線インク

(表面)

写真は赤外線感度のフィルムを使用し撮影した。

表面は約 1 / 3 が赤外線吸収タイプのインクにより印刷されている。

裏面は紙幣番号及び金種の印刷部分以外は右図と同様画像が消えてしまい視認できなくなる。



(裏面)

